

言葉の魔法

ちょっとした一言が人を変える力を持つことがある。
迷ったときの道標になる言葉、
ふと思い出して元気になれる言葉……。
確かな成果を残したビジネスパーソンたちに、
そんな言葉の魔法を聞いてみよう。

“ やると決めたら、とことんやる ”

私は、あまり人に影響されないほうですが、昨シーズンで退任された村上前監督がよくおっしゃっていたこの言葉からはいつも力をもらっています。

アメリカンフットボール実業団「パナソニック電工インパルス」は、創部時から仕事とクラブ活動の両立をうたってきたチームです。メンバーは一般の社員と同様にフルタイムで働き、練習は月・水曜日の夜と土曜日。この限られた練習時間で日本一を目指すのも厳しければ、繁忙期に残業できない日があるのもつらい。しかし前監督は、「一旦自分でやると決心したのなら、その意志に対して責任を持ってとことんやる」と考える人でした。人間はどうしても甘えてしまう生き物で、苦しいときは手を抜きたくなる。そこをどれだけ自分の決意にこだわり続けられるか。そういう精神力の強さを重視するところに、共感しました。

2008年に課長職に任用されたとき、現役引退の潮時ではないかという葛藤がありました。この言葉に救われました。一般的に、40歳という年齢は選手として第一線で活躍できる限界だといわれ、また、課長でありながら仕事に没頭していないと周りに思われるのも嫌でした。しかし自分の気持ちに正直になると、やはりフットボールを続けたい。仕事も、より責任を持ってやっていきたい。それならば両立するしかない。そう決めたら、あとは泣き言を言わずに、とことんやるだけです。

トレーニングと体のケアは365日、オフはなし。歯を食いしばって走りこみ、お酒も極力控えて徹底して体調を管理しています。なぜそこまでするのかと思われるでしょうが、これまで多くの人に支えられてきて、ギリギリでもまだ体が動くにもかかわらず、自分の都合で辞めていいのかと考えてしまうのです。ここまで来たら、もはや自分自身だけの体ではない。とことんやり続けるのは私の責任だと思っています。



人事課長とアメフト日本一の両立を目指す
42歳現役プレイヤー

脇坂康生氏

パナソニック電工 住建事業本部 住建人事部

Wakisaka Yasuo_1969年生まれ。日本大学を卒業後、1992年松下電工（現：パナソニック電工）入社。住建事業本部住建人事部に所属し、2008年には課長職に任用。パナソニック電工インパルスでのポジションは、守備の最前列で相手ラインを破壊し、攻撃を阻止するDL（ディフェンスライン）。日本選手権（ライスボウル）優勝3回、社会人選手権（ジャパンXボウル）優勝5回。日本代表として、W杯にも3大会連続出場。2007年大会では日本代表チーム主将を務めた。